

2019・2020年 市民ネットワーク活動報告

市民ネットワークは、福祉・子育て・環境・まちづくりなどの地域の課題解決に向けて活動しています



学校給食食器の更新・選定・採用に関する陳情

(子どもの未来を考える北広島市民の会)

- ① プラスチック製食器は環境や子どもの身体に良いとは思えない
 - ② 強化磁器食器の方が食育面でも優れている
- 上記の理由から、2024年に新設予定の防災食育センターに整備される小学校給食用の食器について、プラスチック製のPEN（ポリエチレンナフタレート）食器ではなく、強化磁器食器の選定を求める陳情書を北広島市議会に提出しました。建設文教常任委員会で審査後、本会議で議決されました。結果は残念ながら反対多数で不採択となりましたが、書面ではなく、市議会のみなさんに意見や要望を直接届けられたことは、とても意義があることでした。

第4回定例会最終日、本会議において、市民ネットワークは、賛成討論を行いました。



2種類の食器を前に陳情の趣旨説明→

(報告：山本志晴)



ストップ！子ども虐待

～子どもと親の支援にかかわるすべての方のための一日研修～

DVと子ども虐待併発家庭への支援

「北海道CAPをすすめる会」主催

森田ゆりさん（エンパワメント・センター主宰）を講師に、子ども虐待とDVが併発した家庭に、支援者がどのように関わるべきかを学びました。目黒虐待死事件も野田虐待死事件も再虐待で死に至っています。目黒虐待死事件では、子ども自身が児童相談所職員に「ママもババにたたかれている」と伝えていました。子どもの出したサインを適切な支援につなげるしくみが必要です。市民ネットワークでは、子どもが自分の心と体を守れるよう、全ての子どもたちがCAPプログラムを受ける機会を設けられるよう、継続的に求めています。



プレーリーダー養成講座ステップアップ編

(きたひろプレーパークの会)

市民団体主催のプレーリーダー養成講座に参加。子どもの話からその子が抱えている事情や気持ちを聞き取るワークショップや、プレーパークの実践を通じ、子どもたちが「自分らしくいられる場」の重要性を学びました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月と5月のプレーパークは中止となりました。休校は2か月を超え、子どもたちの心身への影響が心配です。



地方議員研修会

生活保護基準の改定をめぐる動向と課題

(反貧困ネット北海道)

福祉、医療だけでなく税金、賃金、住宅などあらゆる制度に影響を与える「生活保護基準」。この基準が引き下げられると連動してたくさん制度が使いにくくなります。講師の岩永理恵さん（日本女子大学准教授）は、「日本の貧困概念はとても貧しい。これが保護基準にあらわれている」と語り、諸外国の例を紹介し、「特に住宅政策が大切だ」と強調されました。基準に連動している制度の中には、就学援助のように自治体の裁量で定めることができるものもあります。運用面についてもチェックが必要です。

鶴谷さとみ と 佐々木ゆりかの 視察報告

地域の特性を活かしたSDGsの取り組み

3/27

上川郡下川町

木材の一大生産地として発展した下川町は、2014年から循環型森林経営をスタート。町内を含む道北圏から搬入される森林材で製材、家具、精油等を製造し、商品化できない残材で、木質原料（チップ）を製造しています。森林資源を余すことなく活用し、木質バイオマス施設からは、公共施設や町営住宅に熱供給されています。

チップ製造施設は昔からの木工場エリアにあり、搬入した残材は自然乾燥でチップ化され、乾燥施設は設置していません。チップ製造事業は、木材加工や燃料販売を担う地元事業者による協同組合が指定管理を受け運営し、地域雇用を生み出しています。



下川町では、未就学児から高校生を対象にした森林環境教育にも取り組んでいます。持続可能なエネルギー循環には地域住民の理解と次世代の育成が重要です。

←木質原料製造施設を見学

バリアフリーのまちづくり JR京都駅

1/22

京都市

京都市は、観光客5,275万人（2019年）、宿泊外国人客は450万人を超える国際観光都市。その玄関口ともいえるJR京都駅のバリアフリーは、どのような工夫があるのか調査しました。

エレベーターを降りたところにある案内板は、点字や音声案内も備えた多機能型で、サインもわかりやすく、観光案内所は多言語に対応しています。一方、歩行者が多い通路とエレベーターへ



の点字ブロックが交差しているところがあり、人がぶつかりそうになる場面に遭遇しました。

今後、改修が予定されている北広島駅や周辺整備に向け、人にやさしく使いやすい施設となるよう求めていきます。

←ユニバーサルデザインの案内板

さとみのコーヒーブレイク



今回で3回目となる「高校生と議員とのまちづくり対話集会」を北広島市議会議員会で企画、開催しました。市内3つの高校から1～2年生24名が参加。テーマ「自分が北広島のリリーター（市長・議員）だったらこんなまちをつくりたい」では、高校生の視点から考えた高齢化、交通、環境、教育、ボールパーク等、未来のまちづくりに向けた意見に希望と期待を感じました。

2021年度から10年間の第6次総合計画が今年度で策定されます。おとなとともに北広島市をつくっていくパートナーである子どもたちが、まちづくりに参加する機会を広げていきます。



市民ネットワーク北海道 ホームページ

